

(報告事項)

第 1378 回 経営委員会資料

2021年5月25日

新津放送会館の建設基本計画について

新津放送会館の移転整備については、会館用地として三重県から 2021 年 1 月 22 日に旧県立博物館の跡地を取得し、検討を進めてきた。

このたび、建設基本計画がまとまったので、会館建設に向けて着手する。

新津放送会館の建設基本計画

1. 整備方針

新津放送会館の移転用地については、2021年1月に三重県から取得しました。この用地は、2007年に閉館した旧三重県立博物館の跡地で、三重県庁や複数の路線が乗り入れている津駅の徒歩圏内にあります。

用地周辺では南海トラフ巨大地震発生時には最大で震度6強程度の揺れが予測されるものの、津波浸水想定区域外となっており、また、周辺河川の氾濫による浸水も想定されておらず、災害に強い立地となっています。新型コロナウイルス感染症の流行を契機として急速に社会全体が変わろうとする中、新津放送会館の建設にあたっては「新しいNHK」にふさわしいスリムで強靱な放送会館の整備を目指します。

2. 基本コンセプト

○自然災害に強い放送局

三重県内は、これまでも伊勢湾台風をはじめとする大規模な災害に数多く見舞われてきました。加えて、今後は南海トラフ地震や超大型台風の発生によりこれまで以上に大規模な被害を伴う災害も予想されています。そのような気候や風土にある放送局として、いかなる非常事態の中でも県民の「命と暮らしを守る」防災・減災報道の拠点としての機能を継続できる堅牢かつ機能的な会館を整備します。

○創造的・効率的で環境変化にも柔軟に対応できる業務エリアの構築

多様な用途に使用可能な汎用的なスペースを整備することで、新しい働き方に対応できるオフィス環境を構築すると同時に、将来発生する環境変化や技術革新にも適時的確に対応できる柔軟性の高い放送会館を整備します。

○視聴者とのタッチポイント

三重県は中規模の複数の都市に人口が分散しており、新会館用地の津市への人口の集中は生じていません。今後は、県内のより多くの視聴者とのタッチポイントを設けるために、可搬型の8K展示設備など機動性の高い設備を整備し、公開番組収録会場などあらゆる機会、場所での交流を通じてNHKに対する理解、促進を図ります。

○周辺景観と調和する環境にやさしい会館

建設用地は津駅西側に位置し、桜やつつじの名所としても知られる偕楽公園に接しているため景観との調和に配慮します。

また、建物本体や設備システムの導入に当たっては、カーボンニュートラルを目指す日本の目標を見据え、積極的に取り組んでいきます。

3. 新会館の概要

(1) 建物・用地の概要

- ・所在地 津市広明町125番1ほか
- ・地目 宅地
- ・用途地域 第2種住居地域
- ・防火地域 指定なし
- ・建蔽率 60%
- ・容積率 200%
- ・敷地面積 3,120.9㎡
- ・延床面積 3,850㎡程度（※機能別面積概要）
- ・階数 地上4階程度
- ・建設方式 単独建設
- ・災害リスク 津波による浸水想定区域外
河川氾濫による浸水想定区域外

※機能別面積概要

(㎡)

機能項目	新会館	現会館	備考
放送機能室	1,466	1,170	スタジオ、放送・技術スタッフ室など
ハートプラザ	160	231	受付など
一般室	754	900	一般事務室、倉庫など
建築設備室	690	758	受配電・冷暖房設備室など
共用スペース	780	673	廊下、トイレ、エレベーターなど
サブステ	-	68	最大利用時の面積
合計	3,850	3,800	

(2) 整備スケジュール (予定)

年度	事項
2020年度	基本計画策定着手
2021年度	基本設計：各室レイアウトやデザイン、構造計算等
2022年度	実施設計：基本設計図に基づき詳細な仕様を図面化 建物解体撤去工事（着工）
2023年度	建物（着工） <ul style="list-style-type: none"> （ 土工事 建物躯体、内装工事 電気設備・空調給排水設備工事 自家発・受配電設備工事 鉄塔工事、外構工事
2024年度	建物（完成）
2025年度	放送設備（完成） 運用開始

(3) 経費概算

土地	約3.1億円
旧博物館建物解体	3.5億円程度
建物	23.3億円程度
	(設計・監理料、杭工事費、液状化対策工事費除く)
放送設備	16.0億円程度 (経常事項の更新経費を含む)

(4) 新放送会館用地位置図

